

# 大池（おおいけ）【木太新池（きたしんいけ）】

## 位置図



## 諸元

貯水量	368 千m <sup>3</sup>
満水面積	10.8 ha
受益面積	29 ha
堤高	6.8 m
堤長	720.0 m

大池は、高松市木太町、高松自動車道高松中央インターの西に位置しています。

今から約 1,300 年前の天平七年（735 年）の年号が記された日本最古の条里制の絵図である「弘福寺領讃岐国山田郡田図」によると、この付近一帯は、古くから開発が進んでいたことがわかります。

地域の人々には古くから「大池」と呼ばれてきましたが、元禄六年（1693 年）に木太村真福寺（廃寺）の僧、龍宣りゅうせんによって書かれた「入江神社記」では「新池」の名称で記されています。「大池」、「新池」と二つの呼び名があることを踏まえ、ため池管理については、昭和七年（1932 年）に新池耕池整理組合が発足し、戦後の土地改良法制定で、高松市木太町新池土地改良区と名称を改め現在に至っています。

昭和 52 年から 12 年をかけて全面改修が行われましたが、平成九年より、太田第二土地区画整備事業の一環である都市計画道路・木太多肥上町線の新設に伴い、土地改良事業等によるため池の堤体新設工事や景観整備事業等が行われました。ため池の堤には遊歩道が整備され、地域住民の憩いの場・体力増進の場として大いに活用されています。



大池西堤からの景観